



結核は過去の病気ではありません！ ～結核を減らすために～

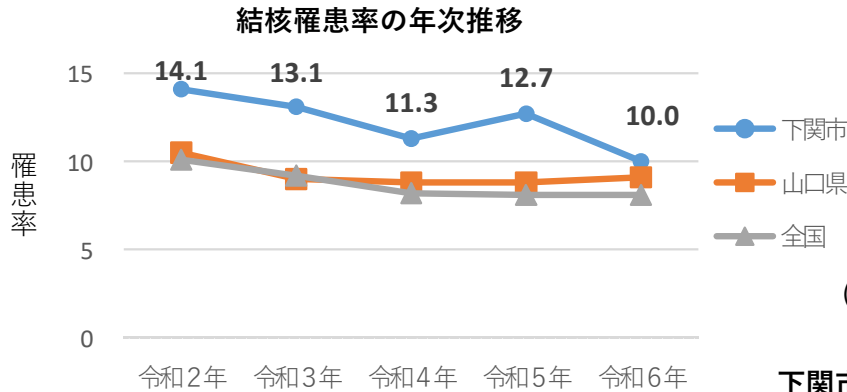


結核の現状

結核とは、結核菌によって主に肺に炎症を起こす病気です。

結核は今でも新しい患者が発生している重大な感染症です。

山口県内では年間100人以上、下関市内では年間約20～30人前後の新規結核患者が発生しています。



下関市で新たに結核と診断された方の割合（罹患率）は全国や山口県と比較すると高い状況です。

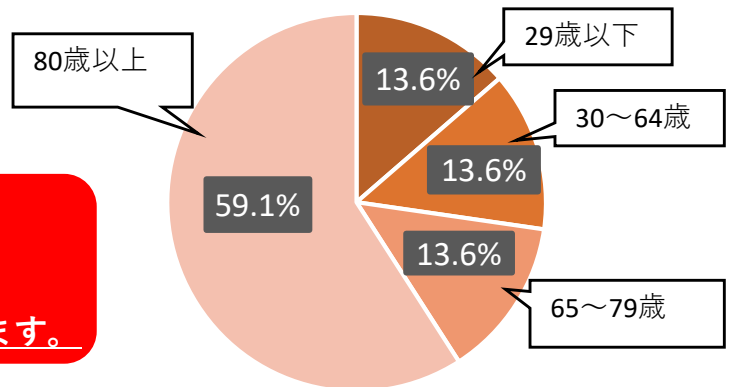
(罹患率 = 新登録結核患者数 ÷ 人口 × 10万)

～80歳以上に多い結核！～

下関市で令和7年に発生した結核患者は80歳以上の高齢者の割合が高く、患者の約6割を占めています。

結核の早期発見には定期的な胸部X線検査が重要です。
特に65歳以上の方は感染症法により、
年1回は胸部X線検査を受ける必要があります。

下関市で結核と診断された患者の 年齢別割合(令和7年)



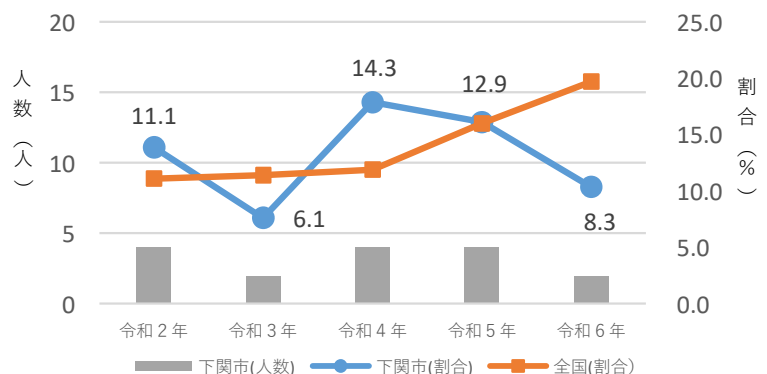
～外国出生者の結核～

新登録結核患者のうち外国出生者の割合は全国的に増加しており、下関市では毎年約1割ほどを占めています。

特に、20～30歳代の新登録結核患者のうち外国出生者の割合が高い状況です。

罹患率の高い国の出生者が日本滞在中に発症するケースがあります。

新登録結核患者に占める外国出生者の年次推移



結核は感染しただけでは、他の人にうつすことはありません。
病気が悪化すると「せき」や「たん」の中に結核菌が含まれるようになり、
人にうつす状態になります。**重症化を防ぐだけでなく、周囲への感染拡大を防ぐためにも早期発見・早期治療が大切です。**

早期発見のために大切なこと

☑症状がある場合の早期受診

☑年に1回、胸部X線検査の実施

《詳しい内容は裏面へ》

医療機関の皆様へお願いしたいこと



シールちゃん

①結核を念頭においた診療をお願い致します。

結核を発病すると、咳や痰、発熱など風邪によく似た症状が出ると言われていますが、下関市においても同様の傾向です。

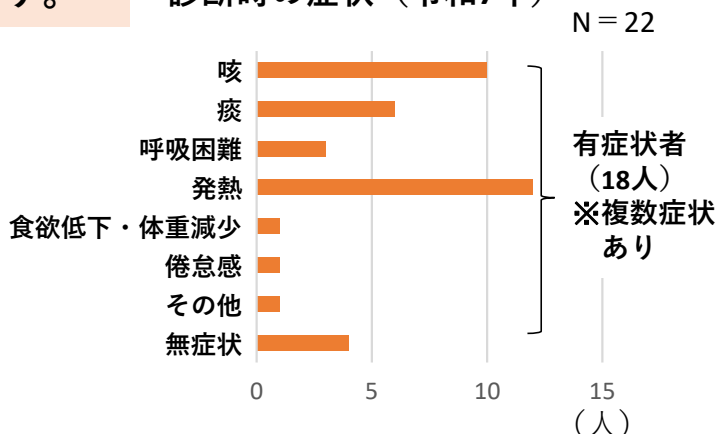
しかし、高齢者では症状がはっきり現れない場合も多く、発見が遅れることもあります。典型的な症状がない場合でも、結核を念頭においた診療をお願い致します。



シールぼうや

「腰痛、腹痛、リンパ節腫脹、便潜血」など、呼吸器症状以外の症状から肺外結核と診断される方もおられます。

診断時の症状（令和7年）



②必要に応じて、菌検査の実施をお願い致します。

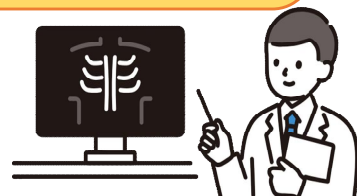
画像にて肺に病変が見られた際には、結核の可能性も考慮していただき、必要に応じて、菌検査の実施をお願い致します。

発症後に受診し、結核と診断されるまでに数ヶ月かかる事例もあり、中には喀痰塗抹陽性で診断される事例もみられています。

発見が遅れることで、患者の重症化リスクだけでなく、周囲への感染のリスクも高くなります。

早期発見のために、必要に応じて菌検査の実施をお願いします。

また、培養検査にて結核診断に至ったケースもあるため、菌検査を実施した際には、培養検査の実施も併せてお願い致します。



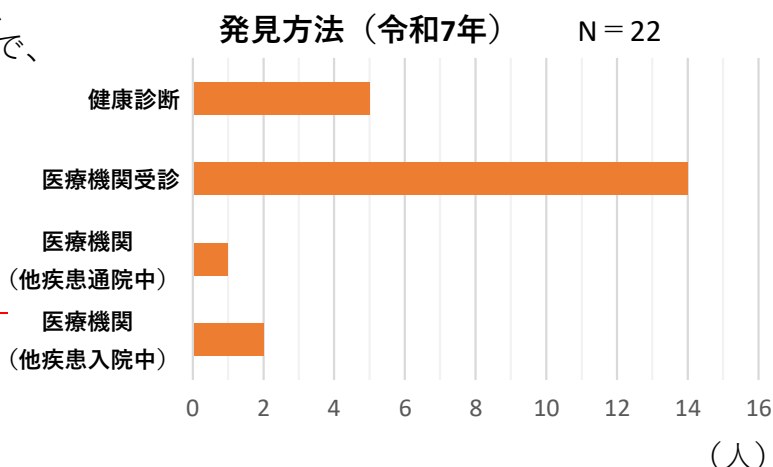
③健康診断（胸部X線検査）の受診勧奨をお願い致します。

下関市における令和7年の患者発見方法は、健康診断（胸部X線検査）が全体の約2割で、健康診断も結核患者の発見には大切です。

特に65歳以上の方は、感染症法により、年に1回、胸部X線検査を受ける必要があります。

胸部X線検査を1年以上実施していない高齢者には、受診勧奨をお願い致します。

※下関市では、市内在住の40歳以上の方で、検診を受ける機会のない方のために、胸部健康診断を実施しております。



定期的に胸部X線検査を受けていない方が、喀痰塗抹陽性で診断される事例が発生しております。

特に施設等の集団生活では、結核を発病した場合に集団感染となる危険性もあります。結核の早期発見、感染拡大防止のためにも、定期的な胸部X線検査の実施をお願い致します。